

# 修 士 論 文 要 旨

看護学専攻 生涯看護学分野 小児看護学領域		学籍番号 215605 氏 名 瀧 愛美
論文題目	生後 3～4 ヶ月の乳児をもつ母親の育児ストレスとコーピング特性	
キーワード	生後 3～4 ヶ月の乳児、母親、育児ストレス、コーピング特性、関連	
<p><b>【背景】</b> 近年、核家族化や少子化が進み、母親になる女性の育児知識・経験の乏しさや育児支援の少なさが問題視されている。育児ストレスは、母親の年齢、健康状態、子どもの人数、育児支援状況などが関連すると言われている。コーピング特性は、母親の精神健康状態に影響するとされているが、コーピング特性と育児ストレスの関連についての研究はみられない。また、生後 3～4 ヶ月の乳児を育てている時期は、母親の自殺数や虐待件数が多く、より積極的に育児支援を行う必要があるとされている。</p> <p><b>【目的】</b> 生後 3～4 ヶ月の乳児をもつ母親の育児ストレスとコーピング特性の実態及び関連を明らかにする。</p> <p><b>【研究方法】</b> 対象者は、生後 3～4 ヶ月の乳児をもつ母親である。協力施設の 1 ヶ月健診に訪れた母親に調査協力を依頼し、児の月齢が 3～4 ヶ月の時期に質問紙調査を実施した。調査項目は、母親の属性、育児ストレス、コーピング特性である。使用した尺度は日本語版 PSI（日本語版 Parenting Stress Index：以下 PSI）、コーピング特性簡易尺度（Brief Scales for Coping Profile：以下 BSCP）である。母親の属性と育児ストレス、コーピング特性との関連を明らかにするために、母集団を属性（年齢、職業、既往歴、妊娠中の治療歴、夫以外の育児協力者の有無等）の項目ごとに 2 群に分け、各群の PSI 得点および BSCP 得点の t 検定を行った。また、母親の育児ストレスとコーピング特性の関連を明らかにするために、PSI 得点と BSCP 得点の相関係数を算出した。</p> <p><b>【結果】</b> 質問紙を配布した 408 名のうち、質問項目の記載漏れ等のない 276 名を有効回答とした。PSI 得点は、専業主婦、年齢が 35 歳以上、既往歴・妊娠中の治療歴がある母親の得点が、対照群に比べ有意に高かった。夫以外の育児協力者がいる母親は、BSCP 得点の下位尺度「解決のための相談」が対照群に比べ有意に高かった。PSI 得点と BSCP 得点の相関係数を算出した結果、BSCP 得点の下位尺度「解決のための相談」、「気分転換」に負の相関があり、「他者を巻き込んだ情動発散」、「回避と抑制」に正の相関がみられた。</p> <p><b>【考察】</b> PSI 得点の結果から、母親の職業の有無、年齢、既往歴・治療歴に注意し、育児不安や育児ストレスの軽減に対する援助を行う必要性が示唆された。PSI 得点と BSCP 得点の負の相関関係の結果から、母親が「解決のための相談」や「気分転換」を用いることは、育児ストレスの軽減につながる傾向にあると考えられた。正の相関関係の結果から「他者を巻き込んだ情動発散」、「回避と抑制」を多く用いる母親ほど、育児ストレスが高い傾向にあることが考えられる。また、母親のコーピング特性に育児への思いや夫との関係、親としての自信などが関連していることも示され、児や夫への思いの把握や、母親が育児への自信を得られるように援助することの重要性が示唆された。</p>		